

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																								
がん看護学演習Ⅰ	1	後期	2	演習 60時間																								
担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、荻津佳奈江																											
授業概要	がん薬物療法看護における様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。がん薬物療法を受ける患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門看護師の役割・機能について学修する。また、がんサバイバーへの支援方法を探究する。																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん薬物療法看護における最新の知見や課題について説明できる。 2. がん薬物療法を受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3. 文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4. がん薬物療法を受ける患者に対する患者教育を計画・実施・評価できる。 5. がん薬物療法をサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。 6. がんサバイバーに対するグループサポートにおける看護の役割と今後の展望について考察する。 																											
履修条件	特になし																											
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-3</td> <td>がん薬物療法看護における最新の知見や課題</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>4-6</td> <td>がん薬物療法を受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか 討議する。</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>7-10</td> <td>がん薬物療法のうち、内分泌療法または分子標的薬による治療を受けている患者が抱えている問題を解決するための看護介入 文献を整理し、発表・討議を行う。</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>11-15</td> <td>がん薬物療法を受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する</td> <td>千葉</td> </tr> <tr> <td>16-17</td> <td>がん看護専門看護師の役割 がん薬物療法をサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の 活動の実際</td> <td>荻津</td> </tr> <tr> <td>18-24</td> <td>がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育 亀田総合病院化学療法センターにおいて、がん薬物療法を受ける患者を受け持ち、学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、 患者教育を行い、評価する。</td> <td>黒田</td> </tr> <tr> <td>25-30</td> <td>乳がんサバイバーのサポートグループに参加し、がんサバイバーに 対する支援に関する看護の役割と今後の展望について考察する。</td> <td>岡本</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1-3	がん薬物療法看護における最新の知見や課題	岡本	4-6	がん薬物療法を受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか 討議する。	岡本	7-10	がん薬物療法のうち、内分泌療法または分子標的薬による治療を受けている患者が抱えている問題を解決するための看護介入 文献を整理し、発表・討議を行う。	岡本	11-15	がん薬物療法を受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する	千葉	16-17	がん看護専門看護師の役割 がん薬物療法をサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の 活動の実際	荻津	18-24	がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育 亀田総合病院化学療法センターにおいて、がん薬物療法を受ける患者を受け持ち、学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、 患者教育を行い、評価する。	黒田	25-30	乳がんサバイバーのサポートグループに参加し、がんサバイバーに 対する支援に関する看護の役割と今後の展望について考察する。	岡本
回	内容	担当教員																										
1-3	がん薬物療法看護における最新の知見や課題	岡本																										
4-6	がん薬物療法を受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか 討議する。	岡本																										
7-10	がん薬物療法のうち、内分泌療法または分子標的薬による治療を受けている患者が抱えている問題を解決するための看護介入 文献を整理し、発表・討議を行う。	岡本																										
11-15	がん薬物療法を受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する	千葉																										
16-17	がん看護専門看護師の役割 がん薬物療法をサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の 活動の実際	荻津																										
18-24	がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育 亀田総合病院化学療法センターにおいて、がん薬物療法を受ける患者を受け持ち、学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、 患者教育を行い、評価する。	黒田																										
25-30	乳がんサバイバーのサポートグループに参加し、がんサバイバーに 対する支援に関する看護の役割と今後の展望について考察する。	岡本																										
教科書	なし																											
参考書	適宜紹介する。																											
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析(40%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。																											
事前・事後学習	<p>事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。</p> <p>事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。</p>																											
備考	<p>* 高度実践看護師コース(がん看護学)の学生のみ履修可。亀田総合病院、乳がんサポートグループでの演習日時・方法などについては、別途説明する。</p> <p>* 荻津の講義は遠隔で実施する。</p>																											